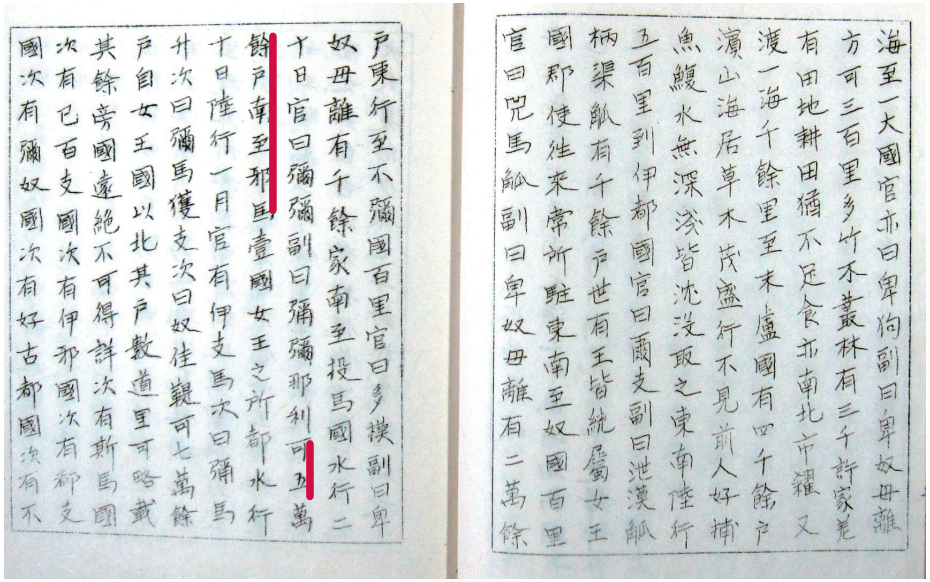
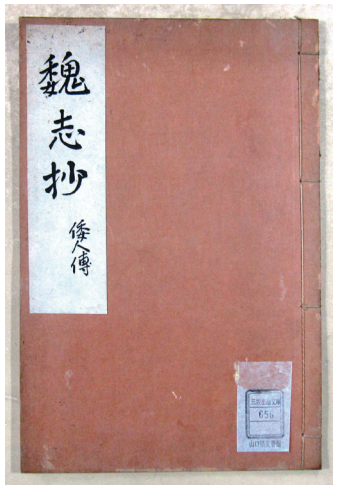
魏志倭人伝





＊御薗生翁甫文庫656「魏志抄　倭人伝」

解　説

中国が魏・蜀・呉の三国に分かれて争っていた3世紀，日本列島には女王卑弥呼が治めていた邪馬台国という国がありました。

その様子を伝える貴重な資料が「魏志倭人伝」（正確には『三国志』のなかの『魏志』30東夷伝の倭人条）です。

内容は，三つに大別され，帯方郡から倭に至る道程とその周辺国，倭人の風俗習慣，魏と倭国との交渉について記されています。特に邪馬台国の位置に関する記事は古くから注目を集めており，その解釈をめぐっては，江戸時代から現在まで数えきれない説があります。

その中でも有力なのが九州説と近畿説で，「魏志倭人伝」に記された方角を重視すれば前者が，距離を重視すれば後者が有利だとも言われています。

この点に関して，同時代の文献の用例と比較・検討した場合，「水行十日陸行一月」という距離をあらわす記述は「水行十日」and「陸行一月」ではなく，「水行十日」or「陸行一月」と解釈すべきだという説もあります。

また，「魏志倭人伝」に記された，山に「朱」（水銀）があって，倭人が身体に「朱」を塗っていたという記事に注目し，水銀の産地が限られることから，邪馬台国の位置を探ろうとする研究もあります。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る